

ご讚題…「円融至徳の嘉号は悪を転じて徳を成す正智、難信金剛の信樂は疑を除き証を獲しむる真理なりと。」  
『顕浄土真実教行証文類 総序』（浄土真宗聖典（註釈版第二版）131頁）

なんまんだぶつ、なんまんだぶつ……

今席ようこそご参詣くださいました。

朝起きましたら非常に天候が悪く心配したんですが、ま、それでも足元が悪うございます。

悪いのは足元だけじゃなしに、腰も悪いし、脚も悪いし、ねえ。

その中をかき分けかき分けて、一年に一度の大切な報恩講のご縁にお参りをいただきました。

しばらくの間ご相談さしてもらうこととございます。

さて、ただ今のご讚題は、わが親鸞聖人さまが、我々のためにお書きくださったご本典、『教行信証』、一番最初の総序のご文の一部でございますが、「円融至徳の嘉号は悪を転じて徳を成す正智」、円融至徳の嘉号、嘉号というのは、なんまんだぶつのことですね。お名号のことでございます。円融至徳〓素晴らしいなんまんだぶつは、悪を転じて徳を成す正智、と押さえてくださってございます。

悪を転ずる……我々たくさん悪を持っておるんです。どういうものかと言いますと、自分にとって都合の悪いこと、いやなこと、気に食わんこと、これみんな悪なんです、自分にとっては。しかしそれをそのまま抱えて日暮しますと、一生涯、愚痴の一生で終わってしまうことが多いんですね。

この都合の悪いこと・いやなこと・気に食わんことがなくなるんじゃない。なくならない。止めることもできない。じゃあどうするか。

それが転じてゆくんですね。転じてどうなるか。

徳となる。徳というのは、実は素晴らしいことだ、大切なことだ、大事なことなんだ。

いやなことが転じて大事なことといたでいていけるところの正智——正しい智慧と書いていますが——正しいというよりも、これは純粋な智慧だということでしょうね。

先ほどもあがりしましたが、お正信偈〓正しい信心の偈というよりも、純粋なる信心の偈。

こういただいてもらうほうが正確じゃなからうかと思えますね。

お互いに自分にとって都合の悪いこと・いやなこと、たくさんございますね。境遇、境涯によってそれぞれ違うでしょうけども、共通した「都合の悪いこと・いやなこと・気に食わんこと」なにかと言いますと——

言うまでもないね、年を取るといことですね。  
どうですか。それとも、「まあ、年取るってこんなええもんや思わんかった」て思わんでしょ。年は取りともないです、誰だってねえ。

年を取るとはどういうことか。

（老人）六歌仙のなかで言うてますなあ、年取るってことはねえ……

手はふるえ 足はよろめく 歯は抜ける 耳は遠なる 目はうとうなる

くどくなる 気短になる 愚痴になる しゃばりたがる 世話焼きたがる

聞きたがる 死にともながる 寂しがる 心がひがむ 欲深くなる